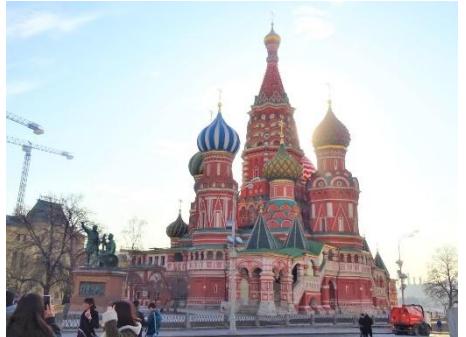
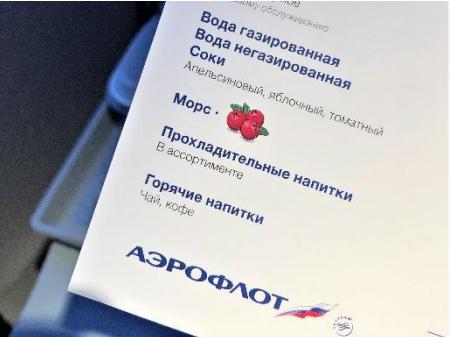


ロシア語



「第2外国語はロシア語にしようかな」と言ったら、みなさんの家族や友達は目を丸くして「なんで?」と聞くでしょうか。それは純粋な興味からの質問かもしれないし、あるいはロシア語の使われる主要国たるロシアとそこに暮らす人々に対する少々ネガティブなイメージからかもしれません。広大過ぎる国土(国土面積世界一)、凍つくシベリアの大地(冬は零下40度)、どこか強面で不愛想な人々、政治や国際関係のニュースは不穏なものばかり…。日本のすぐ近くに位置しているのに多くの日本人にとって何となく親近感のわかない北の大國、ロシア。

「うーん、やっぱりロシア語はやめておくか…」いやいや、それはもったいない!ロシア語を学べば、こうした先入観では捉え切れないロシアという国の文化や社会の知られざる魅力に直に触れることができます。ロシアの広さは、北はオーロラの見える北極圏のムルマンスクから南は黒海沿岸の温暖な保養地のソチ、西はサンクトペテルブルクやモスクワといったヨーロッパとの交流が盛んな都市から東はウラジオストクやサハリンなど日本をはじめアジアの歴史とも縁の深い極東地域まで、地域ごとに豊かな自然や複雑な歴史に彩られた特色をもっています。またロシア人はクールで近寄りがたいイメージがあるかもしれませんが、実際には陽気で冗談好き。それに世の中の不条理を皮肉をまじえた笑いに変えて乗り越えるたくましいメンタルの持ち主でもあります。

ロシア語を学ぶことで扉が開かれるのはロシア一国にとどまりません。今もロシア語が広く使われる旧ソ連の国々には、ベラルーシ、ウクライナ、モルドバといった東欧の国々や、カザフスタンやキルギス、ウズベキスタンといったシルクロードの要衝として栄えた中央

アジアの国々などがあり、皆さんの知的関心や行動範囲を大いに広げてくれるでしょう。

「でも、ロシア語はあの独特な文字から勉強しないといけないし難しそう」そう思う方もいるでしょうか。上の写真にもあるように、ロシア語のアルファベットはところどころ知っている文字もありますね。МОСКВА (マスクヴァー) はモスクワ、АЭРОФЛОТ (アエラフロート) はロシアの航空会社アエロフロートです。なんとなく読めそうでしょ？授業では文字の発音と書き方からゆっくり丁寧に学び、文法も基礎の基礎から少しづつステップアップしていきますので心配いりません。

近年、日本とロシア語圏は経済的な側面で交流が活発化しており、両者の関係は今後発展が見込まれます。将来の日本社会を担う経営学部の皆さん、一緒にロシア語を学びましょう！